

「挨拶」の大切さ

軽米町生徒指導連絡協議会 会長 遠 藤 岳 (軽米中学校長)

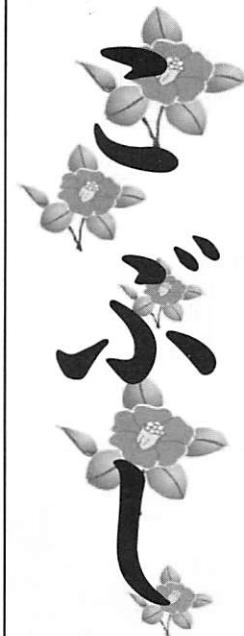
現在、本校の朝は毎日、「おはよう!」「おはようございます!」の生徒たちの声で始まります。

前任校では、昇降口の掃き掃除を

しながら、「おはよう!」と登校してくる生徒たちに声をかける毎日。

それが、当たり前の日常であった私は、赴任した平成三十一年度(令和元年度)、本校でも何の違和感もなく、昇降口に立って挨拶をしました。

しかし、最初のうちは、心の距離感をお互いに感じながらの挨拶でした。しかし、日が経つにつれ、生徒会執行部や応援団が、当番制で挨拶運動をし始めました。「なんだ、ここ



〈編集・発行〉
軽米町生徒指導連絡協議会事務局
TEL 46-2414
印 刷 太陽の里

しかし、朝の陸上練習がスタートし、挨拶部隊が陸上練習へと去っていきました。軌道に乗ってきた「挨拶運動」も少人数化。しかし、雨の日も、風の日も、雪の日も挨拶を続けました。そして、令和2年度がスタートし、「挨拶運動」も継続。複数名での「挨拶運動」が始まりました。しかし、またまた、朝の陸上練習開始。

生徒たちは、挨拶運動をやることはやっているんだ。」と、感心しました。ある日、一人の生徒会執行部の男子生徒に「なんで挨拶運動をするの?」と聞いたところ、「元気で明るい学校にしたいからです。」と明確に答えてくれました。そこで、ここはチャンスとばかりに「挨拶なんて、当番制ではなく、積極的に毎日

きた時、「お疲れ!」「ご苦労さま!」という声が、自然に仲間に向けられたのです。毎日、「挨拶運動」を続けてきたからこそそのプラス効果だと思いました。

今では、声をかけ集まつたリーダーやその友達までも、毎日、昇降口に並び、楽しく「挨拶運動」を行っています。

はじめは、やらされている感があつた本校の「挨拶運動」ですが、今

や自主的な活動へと進化しています。

まだまだ、生徒全員が「挨拶」の良さや「挨拶」の意義を理解しているかといえば、疑問なところはあります。しかし、「凡事徹底」「継続は力」で挨拶運動をこれからも実行していくことで、いつか生徒全員が、いつでも、どこでも、だれにでも、元気に明るく「挨拶」することを信じてこれからも・・・。



地域とのつながり 郷土を担う子どもの育成

軽米町立小軽米小学校 教諭 谷田 覚

本校は、「様々な関わりを通して郷土を担う人づくり」を目指して、教育活動に取り組んでいます。「様々な関わり」とは、「人・物・事」の三つの関わりを意味しています。

今年度は、昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症が大きく影響し、学校行事の多くが延期や中止の措置を取らざるを得ない状況でした。本来であれば、地域の方々や軽米町の特産物との関わりを通して、子どもたちが地域を知り、自分たちの地域の良さに気づき、地域への関心を高めていきます。特に総合的な学習の時間では、身近な自然や社会、人との関わりを通して、子どもたちの豊かな人間性を育むことをねらいとしています。今年度は、例年のように活動できない中、コロナ対策をしながら、「様々な関わり」を大切にして次のような活動をしてきました。紙面の関係で三つの学年を紹介します。



3年生「飾り炭作り」

を行いました。軽米町の特産品調べを行い、小軽米学区で行われている「酪農」と「炭」について学びました。酪農では、笛渡地区で牧場を経営している姫ヶ森牧場を見学しました。炭の学習では、軽米町白煙会の方々に協力していただき、炭窯見学と飾り炭作りを行いました。どちらも昔から小軽米地区で行われてきたのですが、子どもたちにとっては身近なものであっても、実際に見たり触れたりするのは初めての体験でした。

六年生は、地域に伝わる伝統芸能「沢田神楽」について学びました。沢田神楽保存会の方からの指導で舞を練習し、学習発表会で披露しました。

どの活動においても、地域の方々が快く引き受けくださり、そして、限られた活動の中で、軽米町の良さを子どもたちに教えてくださいました。



5年生「感謝の会」

五年生は、米作り体験を通して、地域と関わりました。小軽米地区は雪谷川の両側に平野が広がり、米作りが盛んな地域です。地域の方から田んぼを借り、五月下旬に田植えをし、十月に稲刈りを体験しました。十二月には、米作り体験を指導してくださった地域の方に感謝する会を開き、収穫の喜びと感謝の気持ちを伝えました。



6年生「地域の方々の演奏で舞う沢田神楽」

地域を知ることから始める

軽米町立軽米小学校 教諭 小船一美

本校では、一、二年は生活科に、三年生からは総合的な学習の時間に、自分達の町を知る学習を進めています。今回は、二年生が行った町探検について紹介します。

毎年、二年生は生活科の学習で町探検を行っています。町にあるお店に自分達だけで行き、知りたいこと、見たことが、お店の方々の協力もあり七月一日に実施することができました。例年であれば事前に町を歩き、どんな店があるのかを実際に見てから行ってみたいお店を決めていましたが、それはできなかったので知っているお店や行ったことのあるお店、昨年度の二年生から聞いたことなどから行ってみたいお店を決めました。見たいことや聞きたいことを学校で考えておき、安全に気をつけて行けるようにきまりを確

認し、当日を迎える。

子ども達は、とても楽しそうにグループごとに出かけて行きました。安全確保のために保護者の方三名に、子ども達の見守りに協力していただきました。それぞれのお店に出向き、挨拶や自己紹介を行い、お店を見せてもらったり質問をしたりしてきました。探検後にまとめをするので、必要な写真も自分で撮ってきました。探検が

終わり集合場所に戻ってきた時の子ども達の表情はとても生き生きしていました。自分達だけで行ってきたぞ、お店のことを知ることができたぞという満足感に満ちていました。終わってばかりなのに「また行きたい」という子がたくさんいたくらいです。これは、探検に協力いただいたお店の方が温かく迎え入れてくださったり、保護者の皆様が安全に探検できるように見守ってくださったりしたからだと思います。さらに今回は、子ども達がお店の物だけでなく働いている人にも興味・関心が持てるように、教材ビデオの作成にも地域のお店の方に協力いただきました。おかげで働いている人

についても知ることができました。子ども達が達成感や満足感を得ることができたのは、いろいろな方の協力があってのことでした。二学期には図書館探検も行い、町探検で分かったことや感じたことと共に学習発表会で伝えました。

このように各学年で地域を知る学習が行われています。子ども達も、改めて知ることができたり、普段できない経験をさせていただいたらしくいます。これは、地域の方や保護者の皆様の協力なくしてはできないことです。これからも二者で協力して学習を進めていくことができればと考えています。



コロナ禍での学校行事

岩手県立軽米高等学校 教諭 岩瀬張克昭

軽米高校の三大行事は、「クラスマッチ」と「清掃コンクール」と「軽高祭」です。これらの行事において、学習活動では体験できないことが多くあります。学習活動は個人が取り組むべき活動です。それに対し、学校行事は個人活動では成り立ちません。そこには他者との協力が必要になります。他者と協力する上で一番必要なことは、共に活動する仲間たちとの相互理解です。自分と他者では、容姿が違うのと同じく、考え方も違います。学校行事を通じて、生徒たちは、考えの違いから他者との衝突や交渉を経験し、他者と協力して学校行事に取り組み、成功への糸口を学んでいきます。

今年度は、生徒の精神的な成長が出来る機会が無くなってしまう危機が訪れました。それはコロナ禍です。日本を始め、世界中が現在も苦しんでいます。その対応を巡り、様々なところで議論が起ころ、スポーツや文化などの全国大会などが中止になりました。東京オリンピックも延期になりました。当然、学校では三密の危

険性の高い三大行事について、普段通りに実施できるか、教職員の中で話し合いを多く持ち議論しました。その結果、感染対策を徹底し、内容を大幅に変更し、予定通り実施することが出来ました。

本校軽の学校行事は生徒主体で行っています。特に「クラスマッチ」と「軽高祭」は、それぞれの実行委員会が長い期間をかけて企画を行い、運営しています。今年度の「クラスマッチ」は、全校生徒たちが楽しめることを目標に実施しました。そのた



め、昨年度の反省を考慮し、全校生徒の意見を反映させるために、競技種目とスケジュールを一から見直し、多くの話し合いを行いました。もちろん、コロナ対策についても、生徒たちで話し合い、十分な対策をとつて実施できました。生徒たちはコロナ対策をとりながら、2日間、お互いに協力しながら楽しむことができ、精神的に成長できたと思います。「軽高祭」についても生徒主体で実施できました。但し、コロナ対策のため一部の招待者のみ案内をして実施しました。「清掃コンクール」は他校にはない軽米高校の独自の行事です。担任が協力しないというルールがあります。だから、生徒たちだけで協力し、創意工夫して自分たちの教室を徹底的に綺麗に磨き上げて一心不乱に清掃に取り組みます。点検項目を示し、それを校長・副校長・事務長が審査して、コンクールという形で

競っています。

校訓にある「明るく、強く、逞しく」を実践していくために、学校行事は、生徒たちの成長に必要なものであります。学校行事は生徒たちが社会の一員として必要な相互協力の心を育むからです。そして、時代は新型コロナウィルス感染症の世界的流行だけではなく、情報・流通・経済など生徒たちを取り巻く環境など、日々変化・進歩していきます。生徒が成長する機会としての「学校行事」は、三密を避ける新しい生活様式をとりながら、「新しい形の学校行事」を行っていくことが求められるでしょう。

